

2010年3月期 第3四半期決算電話会議

主なQ & A

Q 1 : 工業用ガス販売量ガス販売量実績は回復してきているのか? 通期ではどのように見通しているのか?

A 1 : 10-12月の工業用のガス販売量については、4-9月までの販売量と比較し前年同期比の落ち込み幅が改善しており、特に、発電用途を除く一般工業用については、5期ぶりに対前年同期比でプラスとなっている。

第4四半期においても、引き続き同様の傾向が見込まれることから、第2四半期末時点の見通しを上方修正している。

Q 2 : 家庭用ガス販売量見通しを前回見通し(2009年10月28日発表)から上方修正しているが、この背景は?

A 2 : 家庭用ガス販売量につきましては、前回見通し作成時には、需要家の省エネ・節約傾向が続くものと想定し、一件あたり販売量を厳しめに想定していたが、第3四半期(10-12月)の販売量実績を踏まえて上方修正した。

Q 3 : 今回通期業績見通しにおいて、前回見通しと比較し経常利益が120億円増の840億円と増益予想となっているが、その背景は?

A 3 : 今回見通しでは、第3四半期の販売量実績を踏まえ、ガス販売量見通しを68百万m³上方修正したことに加え、スライドタイムラグの改善も見込まれることから、ガス粗利が増加している。また、固定費の更なる削減やエンジニアリング事業の受注増による利益増等、連結子会社利益の拡大が見込まれることから、前回見通しと比較し、売上高は30億円増の1兆4,100億円、営業利益は120億円増の840億円、経常利益も120億円増の840億円、純利益は70億円増の550億円を見込んでいる。

Q 4 : LNGの価格改定交渉等の今後の原料費見通しへの影響は?

A 4 : LNG価格改定交渉は順調に進展しており、価格改定影響によって当初の想定から大きく原料費が変化するリスクは低いものとみている。

以上